

児童発達支援・放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和5年2月3日

事業所名：こすもす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・指定基準以上の指導訓練室の面積がある ・屋外遊技場を設ける等、指定基準以上のスペースが確保できている	はい:92% いいえ:0% どちらともいえない:4% 分からない:4%	現状評価の項目を継続
	2 職員の適切な配置	・基準内の職員配置	はい:92% いいえ:0% どちらともいえない:4% 分からない:4%	現状評価の項目を継続
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・室内全室バリアフリー化 ・車椅子用トイレ配置 ・玄関前にスロープあり ・一日の流れを分かりやすいように視覚から理解できるスケジュールボードを使用 ・スケジュールカードは小型の物を用意し、必要に応じて外出先でも使用できるようにしている ・傘を忘れないようなカードやスタート位置の分かる足形などのカードを使用している ・利用者の様子に合わせてカードや視覚提示を用意している	はい:96% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:4%	現状評価の項目を継続
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・毎日清掃・消毒実施 ・定期的な安全点検・設備点検 ・定期的に玩具や本を入れ替える ・季節の応じて壁面を張替える	はい:96% いいえ:0% どちらともいえない:4% 分からない:0%	現状評価の項目を継続
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	人事評価制度の活用(年2回)		・定期的な会議や業務改善に対する振り返り・意見交換を継続 ・全職員がプログラム活動を担当して意欲を持って業務に携わることを継続する ・第三者評価の実施を検討する
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・外部評価は現在、未実施		・外部評価の実施を検討し、より良いサービスの質の向上を目指す

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に研修案内の実施 ・コロナ禍によりZOOM等のオンライン研修に参加 ・集合研修の参加は昨年に比べ多く参加できた ・内部研修の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制を調整し、集合研修やオンライン研修に積極的に参加する ・パート職員の研修の参加を増やしていく
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画作成会議を持ち、サービス等利用計画とアセスメント用紙を用いて個別支援計画作成を行っている ・アセスメント用紙の記入は利用者の代理として保護者に記入を依頼。記載された内容と日々の利用者の姿や保護者との育児相談などをふまえ、アセスメント用紙に記入しづらい微妙なニュアンスは聞き取り調査で行い、利用者のニーズや課題を分析している。 ・相談支援事業所や併用事業所、学校関係との情報交換も行い、ニーズや課題を分析している ・利用者本人がアセスメントの記入を行える場合は、利用者と保護者双方に記入を依頼している 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を継続 ・利用児の現状やニーズをより把握しやすいように、アセスメントの質問内容等を検討していく
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・個別活動と集団活動の目標を利用者に応じて設定している ・専門職と話し合った内容を集団活動の中で取り入れるようにしている 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や相談支援事業所の意見も合わせて希望を確認していく
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に記載している ・利用計画の説明を行う際、更に具体的な支援内容を付け加えている 		現状評価の項目を継続
4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った支援の実施に取り組んでいる 	はい:96% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:4%	現状評価の項目を継続	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	5	チーム全体での活動プログラムの立案	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の活動内容が重ならないように全職員で話し合って決めている ・利用者の活動の姿を職員全員で振り返りを行っている。その際、利用者個々の目標や課題を達成に近づける為のステップアップとなる活動を取り入れるようにしている ・様々な活動や季節に応じた活動を取り入れている。また、同じ活動からは、繰り返し行うことで利用者が安心したり、より達成感を感じることができるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0% 	<ul style="list-style-type: none"> 現状評価の項目を継続 ・コロナ禍で出来なかった外出を取り入れていく ・地域交流を増やしていく
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援は主に平日の開所となり、土日祝は休みである ・放課後等デイは土曜に月に1回、開所している ・長期休暇は活動内容によっては時間の変更を行った 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援の土曜の開所を検討していく ・放課後等デイサービスの長期休暇時は長時間のニーズが高いため、児童発達支援との開所日を調整して、長時間の開所日を作る
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・固定化している活動と、月ごとで内容が変わる活動がある ・固定化された活動を通して利用者の成長や変化を評価していく ・固定化した活動の中にも変化や新しい挑戦を盛り込んでいる ・毎月変わる活動は利用者の興味関心や課題に合うように職員間で話し合って決めている ・活動内容は身体を動かす活動と机上の活動を取り入れるようにし、子どもの興味関心や経験値が高まるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> はい:92% いいえ:0% どちらともいえない:4% 分からない:4% 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・全ての活動において絶えず適切な活動であるかを検討していく ・季節の行事を引き続き行うと共に、季節ならではの活動を多く取り入れていく
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・支援活動前に内容や諸注意、利用者個々の目的や活動を全職員で確認している ・送迎サービス実施等の関係で不在だった職員も情報共有を行い、全体で共有している ・急な内容の変更の場合もその都度職員で声をかけ合い、スムーズに進むようにしている 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
(続き)	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了後に各職員で気づいた点や改善点を話し合い、次回の活動へ繋げるようにしている ・送迎サービスの関係により全職員の話し合いができない場合も、複数人の職員で話し合うようにし、出た意見は他職員にも共有するようにしている ・専門職(言語聴覚士、音楽療法士)の活動後は活動による報告や集団内の関わり方や目標について指導を受けている。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・話し合いの内容を記録に残し、当日以外にも確認ができるようにすることで、前回との比較ができるようにしていく。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・活動終了後に各利用者の日々の記録に記載。記録内容はできたことや取り組む姿勢、些細な体調の変化や機嫌等を記載している。利用者の気持ちへの理解や行動の理由に気づくことができるようにしている。また、どのような関わりでどのような結果だったかを記載している ・記録に記載する職員だけの意見にならないように、活動する姿を職員間で話し合った内容を記載するようにしている。 ・保護者や学校からの引継ぎ内容や帳面に記載されていた内容等を記載し、自宅や学校(園)の様子や保護者のニーズ、子育てについての悩みにも寄り添い把握できるようにしている ・相談支援事業所からのモニタリング実施日や内容を記録し、相談支援との共有についても記載している ・記録用紙の様式を変更して、より保護者に伝わりやすくした 		現状評価の項目を継続
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なモニタリングの実施(最低6か月に1回) ・必要な時は、個別支援計画の作成を6か月を待たずに行っている。 ・相談支援事業所や他事業所との情報交換を行っている ・支援者会議の実施 		・現状評価の継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	・療育支援の場に入っている職員が参画するようにしている ・職員配置を調整し、必ず出席している		・現状評価の継続
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現在は利用児はいない		必要に応じて利用を受け入れていく
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現在は利用児はいない		必要に応じて利用を受け入れていく
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・主に相談支援事業所発信で支援者会議を行うことが多い。保護者の悩みや必要に応じて本園より各機関に情報共有の依頼や支援者会議の依頼を行っている ・各機関と相互に見学を実施し、利用児の様子を確認することがある(保護者の承諾あり) ・電話で各機関と支援の内容、取り組みについて情報共有を行う(保護者の承諾あり) ・当事業所の放課後等デイサービスの説明や見学を実施		・現状評価の継続 ・サポートブックの作成を促していく
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	・卒業する利用者へは支援内容などについて支援計画を障害福祉サービス事業所等に配布 ・支援者会議に参加し情報共有を行う ・就労移行支援や就労支援、生活介護等の障害福祉サービス事業所の知識を得る努力をした		・現状評価の項目を継続 ・障害福祉サービス事業所が希望されたら、本人が利用している日に当事業所の活動時の姿を見学してもらう

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関と相互の見学や連絡を実施した ・研修の受講の促進については、定期的に行った 		<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修には積極的に参加し、コロナ感染拡大の状況に配慮しながら集合研修にも参加していく
	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流や図書館のおはなしの会は感染予防の観点から参加を見合わせた ・事業計画では他事業所や保育園の園児との交流を計画している 	はい:32% いいえ:23% どちらともいえない:7% 分からない:38%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園や幼稚園の園庭開放に参加する ・児童センターや大学のイベントに参加する ・図書館のお話会に参加する ・兄弟も一緒に参加する活動を企画する
	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館や地域の公園、神社、スーパー等に出かけていくことはあるが、招待することはなかった ・作品展や法人内イベントはコロナ感染拡大で中止 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を継続 ・本事業所に招待する活動を企画する(作品展や園庭開放などの企画) ・他事業所や地域の保育園、幼稚園との交流会を実施していく
1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に保護者と一緒に読み合わせ、確認を行っている ・利用料については初めての支払い時に利用料を説明するようにしている ・必要に応じて契約後も説明を行っている(契約変更時も同様) 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	・現状評価の項目を継続
	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と一緒に計画書を読み、内容を説明し確認後に押印を依頼している 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	・現状評価の項目を継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・週に一度の親子療育日を設け親子で活動に参加をする中で関わり方を一緒に考える機会を設けている(児童発達支援事業のみ) ・送迎時の引継ぎやお帳面を通して保護者の子育てに対する姿勢を応援し、心のサポートに繋がるようにしている ・参加対象が保護者になっている研修や講演会の案内 	はい:59% いいえ:11% どちらともいえない:19% 分からない:11%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を継続 ・ペアレントプログラム講座の開催を目指す ・放課後等デイサービス利用者を対象にしたペアレントプログラムの実施を企画したり、成人期に向けた研修、講演会の案内する ・専門職による講座等を開く
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・お帳面、個人記録などを通して利用者の様子や状況を知らせている。また、自宅や園、学校等の様子を伺ったり、引継ぎを通して共通理解を図っている 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を維持 ・お帳面の記入だけではなく、口頭や電話を通してより詳しく説明できるようにしていく
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・相談依頼があったその日のうちに話を伺い、対応している ・保護者が相談しやすい環境を整えるため相談室で対応している ・相談内容が職員1人では判断することが難しい場合は他職員と話し合った後に保護者へ助言を行うようにしている ・相談内容が当事業所だけで助言することが難しい場合は保護者の承諾後に相談支援事業所や各関係機関に情報共有を行うようにしている 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を継続 ・今後の様々な相談内容を想定してケースに応じた関係機関を調べたり、保護者に説明や相談先の紹介ができるように情報収取を行っていく
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会や保護者会の実施は現在なし ・親子療育日や自由時間に相談室を開放し、会話しやすい環境を設定している 	はい:43% いいえ:23% どちらともいえない:15% 分からない:19%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者間の交流の場を多く設定する ・保護者のニーズを明確化にし、保護者が交流できる活動を検討していく(親子ハイキングや交流会等)

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室に苦情・相談ボックスを設置 ・苦情や相談がある場合の流れは契約時に重要事項説明書を通して説明している ・苦情時は管理者に報告し、速やかに対応すると共に法人本部にも報告している 	はい:55% いいえ:0% どちらともいえない:11% 分からない:34%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・今後も苦情相談があった場合は職員間で共有し、問題を検討することを徹底していく
8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードやタイムスケジュールの掲示を視覚的に行っている ・タイマーを設けたり、歌を通して場面や時間の切り替えを聴覚的にも知らせている ・本人が選択する事を大切にし、本人の意思表示ができるように質問したり、環境を設定している ・保護者より要望がある方には締め切り日や持ち物内容にマーカーで色付けして分かりやすいように知らせている 	はい:100% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・必要な人には特別に作ったお便りを配布する
9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の予定表を全利用者へ配布 ・通信誌を通じて活動概要や福祉制度、子ども達の日々の様子を配布 ・HPの定期的な更新 ・活動時の姿をカメラで撮影し写真販売を通して活動時の姿や取り組みを発信 	はい:81% いいえ:4% どちらともいえない:4% 分からない:11%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を継続 ・情報を一括送信などができるようにメールを導入する ・そのメールは緊急時にも活用させる
10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に個人情報について掲示 ・契約時に個人情報や対応について説明を行っている ・個人情報の取り扱い(作品の掲示内容やHPに写真の掲載可否等)を調査、同意書を得ている ・他事業所や相談支援事業所、学校や幼稚園等と必要に応じて、情報の共有をする同意を得ている ・職員の研修などで事例発表を行う際はその都度、個人情報の取り扱い、発表内容の説明と同意を得ている 	はい:93% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:7%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症拡大時に家庭での対応についての案内文を配布している ・マニュアルを策定し、職員に周知を行っている ・避難先や警報発令時の対応は玄関に掲示、定期的に保護者に対応を伝達 ・相談室に避難確保計画(洪水編)の冊子を常備 ・流行時に応じた感染症の対応を掲示、各保護者へ配布 	<ul style="list-style-type: none"> はい:89% いいえ:0% どちらともいえない:4% 分からない:7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の内容の充実を図る
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に取り入れ実施 	<ul style="list-style-type: none"> はい:70% いいえ:0% どちらともいえない:0% 分からない:30% 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な危険を想定し、避難訓練の実施や災害、防災の理解を増やしていく ・消防署の見学等を実施して防災意識を高めていく
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の虐待を防止する研修を受けた ・法人内の児童家庭支援センターに虐待発見時に備えて対処方法の指導を受けた 		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に関する研修(外部研修)の情報を内部研修として伝達し、全職員に周知することを繰り返し行う
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階では身体拘束を行っていない ・契約書内(第4条の2)運営規程(第18条)に記載 ・身体拘束に関する研修を受け、知識を得た 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を継続 ・強度行動障害研修の検討 ・委員会の設置、内部研修を実施していく ・身体拘束をしなくても済むような支援を検討していく
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者全員のアレルギー反応を周知していると共に医師の指示書を全職員が確認している ・活動内容や給食の献立を保護者や調理師、管理栄養士と確認している(献立表やクッキングのレシピを事前に知らせている) 		<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・事例集の作成 ・ヒヤリハット事案が出た場合は会議で話し合い、職員が周知できるようにしている 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の項目を継続